

F-23 家政学の方法に関する研究—生活の近代化と家事労働（大山町の場合）  
大分大教育 藤田美枝

目的 科学としての家政学を「人間の科学」「総合科学」とし、単なるくよせあつめ学問>く家政領域内学問>でなく「独立科学」として構想している。これまで部分的・個別的に研究対象とした家政学の性格を、一地域生活実態の中に全体的履歴を試み、家政学の方法の実証的提案を試みる。

方法 大分県日田郡大山町は、畠山村過疎の町である。十年前がウウ×、クリと植樹しウメ・クリでハワイへとか、イスラエル・キブツに学ぶ姉妹都市契約等、町と住民が新しい町づくりに意欲的である。大山町にある3校の小学校・6年生、1校ある中学校1年生の母親を調査し、同郡他中学と対照しながら家事労働についてアンケート調査をした。

結果 家政学を「生活変革」という動的に捕え、近代化される生活に伴う問題点に對する生活主体者として、立場と視角、目的達成のための生活科学と生活技術、その習熟（個別的学習・習練）のみでなく住民大衆としての集団学習、住民運動の重要性を、大山町町政システムと現地年中行事などにみた。